美しい森林づくり全国推進会議

「伝えたい木の文化、残したい美しい森」
～美しい森林づくり推進国民運動～

NPO地球緑化センターの美しい森林づくり

特定非営利活動法人（NPO）地球緑化センターは緑のボランティアを育てる組織として一九九三年に活動を開始しました。地方に根付いたボランティア活動を全国各地で繰り広げる中、新たに木の実のなる広葉樹を対象とした「おかしの森運動」などを展開し、また、将来は「緑の語り部養成講座」の創設も考えるなど、その活動は一層の広がりを見せています。『緑、人を育む』をモットーとした地球緑化センターの取組をご紹介します。

地球緑化センターの中心的なテーマは「緑、人を育む」です。このテーマについて新田均事務局長は「自然豊かな緑が我々を感性豊かな人間に育て上げてくれる。そのための緑を大切に守り、培っていこう、というのが地球緑化センターのそもそもの目標です。最近は緑や森に対する理解が深まり、緑を大切にしようという動きがいろいろなステージで展開されるようになってきました。その点では非常に喜ばしいことですが、ともすると、その取組は『人が緑を育てよう』という傾向が強く現れる形となってしまっています。もう少し謙虚に、『人を育んでくれる緑を、もっと大切にし、また我々がそれを守り、培っていこう』ということでないと、本来の自然との共生は生まれないのではないかと考えています」と、地球緑化センターの取組姿勢を説明しています。

こうした考え方に基づき、地球緑化センターは、現在大きく分けて三つの活動展開を行っています。一つが緑のボランティア活動で、これには「緑のふるさと協力隊」、「山と緑の協力隊」の他に「緑の親善大使」（中国での植樹活動）などの個別の活動が含まれます。二つ目は緑の環境教育にかかわる活動で、「緑の学

新田均事務局長

金井久美子事務局次長

校」や「おかしの森運動」を展開しています。三つ目は山から海岸林に至る広大なフィールドを対象とした緑の育成活動です。

「緑のふるさと協力隊」は、農山村に興味を持つ若者を、地域の活性化に取り組む地方自治体に一年間派遣するプログラムです。スタートして第一六期を数える緑のふるさと協力隊は、今年も全国三七市町村に四五名を派遣しました。地元の住民と同じ土地で生活しながら、森林整備や村おこしのイベントなどにも協力し、施設運営の手伝いや特産品作りなどを行います。

赤沢自然休養林での森づくり体験活動

「山と緑の協力隊」は、一九九六年から取り組んでいる市民参加の森づくり体験活動で、国有林野や町有林などをフィールドに、北は岩手県から南は山口県に至る広範な地域で展開してきました。今年は六月に、「樹齢三〇〇年の森林づくり」をテーマとして、長野県の赤沢自然休養林を会場にヒノキの間伐や森林教室などを開催します。

赤沢では囲炉裏を囲んで森林教室を開催

「緑の学校」では、小学校への訪問授業を行い、「ガスラー」と題した特製の紙芝居などの上演や森林教室、クラフト体験などを実施します。次世代を担う子供たちにもっと身近に緑を感じて欲しいとの想いを込めた活動で、将来は「緑の語り部養成講座」の創設も考えるなど、その展開はますます広がっていく模様です。また「おかしの森運動」は、生き物が住める森を作ろうという取組で、今年は、森から取った木の実などを使う「創作おかしコンテスト」を地方自治体の協力を得ながら実施します（募集は六月から開始し、表彰式は一一月に長野県小海町のおかしの森を会場に開催予定）。

富士山での活動には森林管理署のスタッフも参加

NPO法人地球緑化センターの事務局次長で林野庁の林政審議会特別委員も勤める金井久美子さんは「地球緑化センターは緑のボランティアを育てるための応援組織です。ここから育った人が各地でそれぞれボランティア活動を展開して初めてその成果が上がったといえるわけで、そういう意味ではようやく拡がりの輪が出てきたといえる状況になりました。これからはこの輪を一層広めるとともに、緑を守り、培っていく中で、この組織がコーディネーターとしての役割や、各方面からのニーズを連携させていくコネクターとしての機能を今後充実させていきたいと考えています」と、将来に向けた抱負を語っています。

イベント会場や学校で行う紙芝居ボランティア